

# 新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 俊太郎



新年あけましておめでとうございます。読者の皆様、ご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

政権交代により成立した民主党の鳩山内閣は、米国発の世界同時不況の影響を引きずり、菅内閣に代わっても掲げたマニフェストの実行もままならないようです。最近では隣人中国の圧力に振り回され、民主党の外交面での手腕も問われております。中国各地での反日デモやレアアースの輸出停止は少なからず我国の企業活動に影響し、先行きの懸念材料となりました。いずれにしても、米国も含めた、中国、ASEAN、インドを生産拠点や資源確保先とする事業展開を考え、企業としてどのように対処できるかが問われる時代に入ったことは間違いないようです。

この様な状況で、根岸英一(米パデュー大学特別教授)、鈴木章(北海道大学名誉教授)の二人の日本人がノーベル化学賞に輝いたのは明るいニュースとなりました。ノーベル化学賞を共同受賞したのは、「有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング反応」で、医薬品や液晶材料など多様な工業製品の製造に必須の合成法を開発したことが評価されたものです。1970年代に発表されたこの合成手法は、大学や企業の研究所など化学分野の基礎研究に欠かせない重要な技術で、両者の研究成果は日

本の化学者を刺激し、有機合成は現在日本のお家芸といわれるほどに発展しております。

「技術立国日本」、現在のような混乱期にこそ花開く技術の芽を養い、基礎研究に力を入れていく必要があると思います。

当社は、試薬、ライフサイエンス、化成品、電子材料など多岐に亘る事業構成により基礎研究から先端産業まで幅広く皆様のお役に立てるよう努力しています。新しい技術を取り入れつつ、社会とともに発展していくことを目指しています。

昨年は、三重県に国内第6番目の工場を竣工し、海外では米国、台湾に続く3番目の生産拠点シンガポールでも本稼動を開始致しました。また年末には、本社事務所を室町東三井ビルディングに移転致しました。

「THE CHEMICAL TIMES」は昨年、六十周年の節目の年でしたが、学術誌として今後も益々充実した内容で発行に取り組んでまいります。

今年も、最上の品性と、最高の権威と、最大の努力をもって、その内容が真に誇れる製品を地道に作り続けるとともに科学進歩の一翼を担えるよう鋭意努力して行きます。

皆様におかれましても、この一年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶いたします。